生 涯 教 育 研 修 活 動 報 告 書

一般検査研究班

1　実施日時：　2021 年　10 月　22 日　　19 時　00 分　～　　20 時　10 分

2　会　場　：　Web 開催　　点数：　　専門 ― ２０点

3　主　題　：　自宅で鏡検実習②！～あなたの PC が顕微鏡に⁉（上皮細胞編）

4　講　師　：　藤村　　和夫　（埼玉県済生会川口総合病院）
　　佐々木　菜緒　（越谷市立病院）

5　協　賛　：　なし

6　参加人数：会員　96 名　賛助会員　　0 名　非会員　　0 名

7　出席した研究班班員：藤村和夫　室谷明子　柿沼智史　佐々木菜緒
　　渡邉裕樹　小針奈穂美　中川禎己　小関紀之

8　研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、自宅で鏡検実習の第 2 弾として、【上皮細胞】をテーマに講師に藤村氏と佐々木氏の 2 名をお招きした。

最初に藤村氏より上皮細胞の基礎編ということで、尿中に出現する細胞の鑑別やこれからの尿沈渣検査に求められる付加価値情報についての講演であった。上皮細胞を鑑別していくためには、色調・染色性・表面構造・辺縁構造・核の位置と大きさに着目をする事が重要であるとのことだった。扁平上皮細胞の色調は灰白色であり、これは細胞の表面構造が均質状であるため、一方、細胞の表面構造が漆喰状の尿路上皮細胞や顆粒状の尿細管上皮細胞は漆喰状や顆粒上の部分に尿中の色素成分が沈着するため黄色調を示すなど、理由も踏まえて詳しく説明されており大変分かりやすかった。また、尿沈渣検査は細胞の分類と概数の報告だけではなく、臨床的付加価値情報を追加することが近年求められており、この付加価値情報とは、赤血球形態の報告、白血球細胞の生死、尿細管上皮細胞の由来、異型細胞の有無などが挙げられた。また、2 例の尿沈渣症例を動画で鏡検しながら、前回行った血球編の復習を踏まえて、どの様な付加価値情報を追加しているか説明されていた。症例 1 は 20 代女性患者症例であり、表層型の扁平上皮細胞が多く出現、真菌が確認できたが、白血球が死細胞であることから、【婦人科領域のコンタミを疑います。】とコメント、症例２は６０代女性患者症例で

あり、表層から深層型までの尿路上皮細胞を集塊から孤立散在に認め、非糸球体型赤血球が出現していたが、異型細胞を認めないこと、自然排尿に提出されていることより、【上皮細胞の損傷を疑います。】とコメントしていた。藤村氏の施設では上皮細胞が多く出現している場合には原因を尿沈渣中で検索し、可能な限りコメントを付与して結果を臨床側に返しているとのことだった。症例の考え方やコメントの仕方などとても参考になる内容であった。

続いて佐々木氏からは尿細管上皮細胞と異型細胞についての講演であった。尿細管上皮細胞の内容は尿細管の由来から見た細胞質表面構造の違いや特殊型の発生機序について、異型細胞の内容は患者背景で注意すること、尿沈渣検査の背景、出現細胞、細胞診診断様式 2015 を踏まえたうえでの核の見方について､3 例の尿沈渣症例を画像で鏡検しながら説明された。2 例は尿細管上皮細胞であり、典型的な鋸歯型の尿細管上皮細胞とビリルビン尿に見られる多彩な尿細管上皮細胞についてであった。これらの症例の中で細胞質内のリポフスチンの存在や円柱内の尿細管上皮細胞を確認することによって出現している上皮細胞が尿細管上皮細胞であることを認識するための一助になると説明されていた。また、異型細胞の 1 例では年齢・性別・症状・尿定性結果などの患者背景から弱拡大にて非糸球体型赤血球・細胞質内封入体細胞などの尿沈渣の背景、小型円形細胞・大小不同の細胞・細胞集塊を観察するポイントについて順序立てて説明しており分かりやすかった。尿細管上皮細胞と異型細胞の基礎的な内容を、改めて確認することができた。

尿沈渣検査において、上皮細胞の分類・異型細胞の鑑別は非常に難しく、多くの技師が苦慮する部分でもある。今回は Web で行われたことにより、沈査成分の写真が見やすく、動画も見るべきポイントをマウスで指してもらえるため、とても分かりやすく大変勉強になった。今後の日常検査に活かしていきたい。

提出日　　2021 年　11 月 1 日

文責：小針奈穂美